

KENGURO

季刊報

vol.25

Focus on!!

ベトナムとの交流を進めています!!

台湾国立嘉義大学で研究インターンシップ!!

タイの国際研修プログラムに参加!!



ネーミングライツ事業によりテクノホールは2024年4月より「みらい AIO ホール」の愛称に!

Focus on!!

ベトナムとの交流を進めています!!

岩手大学では国際的な学生間・学術交流を推進するため、海外の大学や研究施設と大学間あるいは部局間協定を締結しています。特にアジアを見てみると、タイ、韓国、中国、モンゴル、台湾とは活発な学生・研究者交流が進められているものの、ベトナムとの交流は極めて限定的な状態です。ベトナムからの技術実習生の増加に見られるように、日本への留学生も近年増加しており、中産階級が一気に増える4~5年後には留学希望者が倍増するとも言われています。本Focus onでは、2023年11月にベトナムで開催された日本留学フェアの様子と、本学理工学部にて在籍するベトナム人留学生の声ををご紹介します。

日本留学フェアで岩手大学を宣伝!

日本留学フェアは、日本への留学を希望する、特にアジアの高校生・大学生を対象に日本留学に関する情報提供を行うイベントで、毎年、アジア数カ国で開催されています。2023年度は、本学国際課の山下主査と中村主事、理工学部電気電子通信コースの大坊真洋教授、理工学部のベトナム人留学生のウットさんの計4名が11月25日、26日にそれぞれベトナムのホーチミン市とハノイ市で開催された日本留学フェアに参加・宣伝を行いました。両会場の来場者数は計1,995名で、うち54名が本学ブースに来訪しました。英語または日本語ができる来訪者がほとんどでしたが、ウットさんによるベトナム語での丁寧な説明も行われました。アンケート結果(回答者34名)によると、学部、大学院希望者はそれぞれ6割、4割で、分野別では約7割が理工・農学系に興味を持っていました。特に理工系では機械工学、デジタルメディアへの関心の高さが窺えました。一方、英語で授業を受けられる、または卒業できる学部・修士課程の有無に関する質問が多数あったようで、英語授業のカリキュラムが整備されていない理工学部にとっては、今後の課題と言えます。

本学における2023年度のベトナム人留学生数は5名、うち2名が理工学部在籍です。例年、ベトナムからの留学生は少ないですが、優秀な学生が多いのが大きな特徴で、近年、卒業後に日本(それも岩手!)に就職する学生が増えています。岩手や岩手大学の良さをベトナムの方々にアピールしつつ、大学・学部間協定の締結を進めて、是非、交流を活性化していきたいですね。

日本留学フェアの岩手大学ブースで来訪者に説明している様子(写真右)。理工学部の入試制度(個別試験がなく書類選考のみ)は評価が良かったようです。交換留学の問合せも数件ありました。



ホーチミン市での日本留学フェア前日、ホーチミン工科大学応用科学部のNghia 副部長を表敬訪問しました(写真左)。共同研究や博士課程留学生獲得に向けた話し合いを行いました。今後、協定書を交わすこととなりました。

ハノイ市での日本留学フェア終了後、ハノイ工科大学を表敬訪問しました(写真右)。MICA 国際研究所教授および国際課職員と短期研修や交換留学、協定について話し合いを行いました。国際課には日本担当の職員もいるそうです。



留学生の声：理工学部 電気電子通信コース B4 ヴォ ヴァン ウットさん

2018年03月28日にベトナムから日本に参りました。大学に合格するために、盛岡ビジネス専門学校日本語学科で2年間くらい、日本語だけではなく数学・物理・化学も必死に学びました。日本語学校を卒業後、おかげさまで、3つの大学に合格しました。その中で、岩手大学理工学部電気電子通信コースにも合格しました。盛岡に2年間住んでいて、ある程度生活に慣れていて、岩手の人が優しく心が温かいこと、引越す必要がなく、またアルバイトも新しく探す必要がないことから、岩手大学で勉強することにしました。

2020年4月に岩手大学に入学しました。学校に通うことを楽しみにしていましたが、ちょうどコロナウイルスの影響で授業は全部オンラインになってしまいました。分からない知識が沢山あって、どうすればいいかわかりませんでした。担当の先生と相談して、チューター制度があることを教えてくれました。チューター制度を申し込んで、分からないとき、チューターの先輩に聞いて、分かるまで教えてくれました。すごくいい制度だと思いました。

2018年から今まで、毎朝4時から新聞配達して、8時半に学校に行って、週2、3回くらい17時から22時までコンビニでアルバイトしています。日本で過ごして6年が経ち、現在4年生になりました。大坊研究室に配属されて、シールド球形ベクトルポテンシャルコイルの内部電界分布というテーマを研究しています。ベクトルポテンシャルや回路、電磁気などの知識、研究に対する取り組み方など多くのことをご指導いただいた大坊真洋先生によって、いろいろな知識を身に付けました。

2023年3月に岩手県の大昌電子岩手工場に配属されて、2024年4月に入社予定です。岩手県の経済発展に貢献したいと思います。将来、私は電気エンジニアになりたいと思います。これから、もっと頑張りたいと思います。



研究室の集合写真(写真上)。前列中央がウットさん。

台湾国立嘉義大学で研究インターンシップ!!

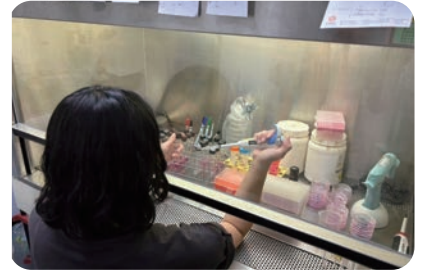
理工学部理工系教育研究基盤センター グローバル研究者育成部門では、博士課程進学を考えているグローバル研究者育成プログラム生に対して、研究インターンシップや国際会議参加の補助を行っています。今回、本プログラム生の鈴木花純さんが2023年夏に約1ヶ月間、台湾国立嘉義大学で研究インターンシップを行いましたので、体験談をご紹介します。

理工学専攻 生命科学コース M2 鈴木花純さん

がん研究を行う上で必要となる新たな知識や技術を習得するため、台湾国立嘉義大学でのインターンシップに1ヶ月間参加しました。現在私は、細胞内輸送研究室（芝陽子准教授）で細胞外小胞の1つであるエクソソームの形成過程について研究しています。エクソソームとは細胞が分泌する小胞で、がんのバイオマーカーとして注目されています。本研究室で最近同定された2つのタンパク質が、エクソソーム形成において細胞生物学的にどのように働くのかを明らかにするため、がん細胞の悪性化への関与を今後調べていこうと考えています。そこで理工学部の協定校である台湾国立嘉義大学生命科学院生化科技学系のYun-Wei Lin研究室で専門性の高いがん研究の技術を学びたいと考えました。

Lin研究室では、非小細胞肺癌の研究を行っており、抗がん剤を複数組み合わせることで肺がんの寛解を試みています。インターンシップでは、研究室の基本的な設備の管理方法から、抗がん剤を投与した非小細胞肺癌の生存率評価など、専門的技術を必要とする実験を学びました。日常生活や研究活動は全て英語でコミュニケーションをとっていました。自身や台湾の人々にとって英語は母国語でないため、全てを完璧に伝え合うことが難しく、はじめはお互いに苦労しましたが、毎日の交流を大切に、諦めずに対話を続けたことで、円滑にコミュニケーションをとれるようになりました。

幼少期より生物に強い好奇心を持っていた私にとって、「研究者」とは常に疑問を探求し続けることのできる理想の職業です。研究者になるためには、自身が専門的な知識や技術を身に付けていることを証明しなければなりません。そこで私は来年度から博士課程へ進学し、自身の知識と技術をさらに磨いていこうと考えています。私は個人だけでなく、様々な人達と交流することでより良い研究活動を行うことが出来ると考えています。今回のインターンシップではLin先生をはじめとした、嘉義大学の人々との交流を経て自分の専門以外の研究を、現地で実際に見て学ぶことができました。私はこの経験をこれからの自身の研究活動と研究者としてのキャリアに生かしていきたいと考えています。



実験の様子（写真上）。抗がん剤の評価に使う非小細胞肺癌を播種中。



Yun-Wei Lin先生（前列左）と研究室学生と集合写真（写真上）。前列中央が鈴木さん。

タイの国際研修プログラムに参加!!

理工学部では学部学生を対象に、タイ、韓国、カナダなど、様々な短期国際研修プログラムを用意しています。特に、タイの研修プログラムは、ビジネススクール大学院で、サプライチェーン、物流、持続可能性の基礎を学びながら、種々の工場を訪問してグローバル企業の活動を学ぶことができるという特徴があります。今回、2023年8月27日～9月9日の日程でタイで実施された研修プログラムに参加した橋本夢花さんの声をご紹介します。

理工学部 電気電子通信コース B3 橋本 夢花さん

入学してから、英語能力向上や外国文化に対して大変興味を抱いており、海外プログラムへの参加を切望してきました。パンデミックの間、オンラインで外国人との交流を含む英語研修に参加しましたが、いつも物足りなさを感じていました。そんな中、このプログラムを見つけ、「待ち望んでいた現地での外国人との直接コミュニケーションがようやく実現できる」と期待を胸にタイへと向かいました。

現地に着いた途端、工場見学、ビジネス専門家からの講義、研究室訪問など、盛りだくさんの2週間のプログラムが始まりました。工場見学では、味の素やパッケージング会社など、様々なタイプの工場を訪れ、海外で成功を収める日本企業を直接見ることができました。英語での説明を聞くだけでなく、自分でも驚くほど多くの質問を英語ですることができました。講義は、日本の典型的な受動的聴講スタイルとは異なり、自らのアイデアを積極的に発表する機会が豊富にあり、英語での自己表現のスリルを満喫しました。このプログラムの特徴の一つは、非ネイティブ同士の気軽な英語の交流が可能で、これが大きな魅力となっています。

キングモンクット工科大学トンプリー校（KMUTT）では、生物学、物理学、電気工学など、様々な分野の研究室を訪問しました。タイの最先端研究や施設について学び、電気系を専攻する私にとって新たな刺激となりました。また、アユタヤ遺跡、水上マーケット、寺院などへの小旅行を通して、タイの学生との交流が一層深まりました。

英語学習だけでなく、思いがけず他の収穫もありました。このプログラムには東京大学や昭和女子大学の学生も参加しており、日本人の中でも異なる背景を持つ人々と交流することで、様々な価値観や考え方を知ることができました。日々のプログラム終了後は、タイや日本の学生たちと一緒に中華街やナイトマーケットに繰り出し、忘れられない思い出を作りました。

このプログラムを通して、英語のコミュニケーション能力の向上だけでなく、日本では経験できない異文化や価値観に触れることができたことは、私にとって大きな成長の機会となりました。



空調機器製造会社 KRUGER Company Limited にて工場見学をしている様子（写真上）



アユタヤ遺跡にて（写真上）

掲示板 ★国際交流広報コーナーがリニューアルされます!

理工学部1号館1階ラウンジに「国際交流広報コーナー」があるのはご存知でしょうか。理工学部とゆかりのある海外の交流協定大学の紹介や、頂いたお土産などを飾っています。今回、新しく交流協定を結んだ大学紹介など、来年度リニューアル予定です。正面玄関に入ってすぐ目の前ですので、ぜひ一度お立ち寄りください。世界地図や各大学の写真などを見て、海外に興味やわくわくかけられればと思います。

編集局：

研究高度化・グローバル化特別対策室

Email: kenguro@iwate-u.ac.jp

TEL: 019-621-6405

http://www.kenguro.iwate-u.ac.jp/



研グロHP